

①吉部ふれあいセンター

吉部出張所と併設され、地区住民の地域活性化への取り組み等活用されている。2階には郷土資料室も併設され吉部の文化を知ることができる。



郷土資料室

②吉部市地区街なみ

明治以後、昭和にかけて資材の集積地区として賑わってきた吉部市。街なみ環境整備事業により、歴史的環境を醸し出す石張りの道路や随所に公園や四阿を配置するなど、平成6年から10年間にわたり整備された。

③船木鉄道跡

大正5年船木鉄道が宇部-船木間、大正15年に吉部まで延長開通し、昭和19年までの20年間地域の経済、文化、産業の発展に大きな役割を果たした。しかし、経済不況・金融恐慌、また、各事変により鉄不足を補うため昭和19年に吉部-万倉間の線路が撤去された。今でも鉄道跡が各所にあり、トンネルも残っている。

・吉部「千本桜」桜源郷計画

「夢ゆめクラブ吉部の郷」では、地域資源を活かした地域活性化を推進しようと、旧船木鉄道のトンネルや鉄道敷跡を整備し、桜などの植栽を行う計画をしている。また、吉部校区の要所にも桜を植栽し、来訪者に自然の大切さ、吉部のすばらしさを発信する。

④槍立森古墳

6世紀後半に造られた横穴式石室を持つ古墳。明治初期まで吉部八幡宮の大祭には大提灯がともされ、槍持ちの警固番人が立ったと伝えられる。槍ヶ森又は一ノ森とも呼ばれる。また、周辺には下市遺跡や上原田遺跡なども発掘された。



⑤吉部八幡宮

宇部尾に鎮座し、別名寺尾八幡宮といい、弘長元年(1261年)の創建。毎年11月3日に行われる芋9個、餅9個を煮て神前に供する「芋煮えの神事」は、創建当時の事情を物語る古式として有名である。

・狛犬

本殿前に建つ狛犬1対は、珍しい「尻上り形」のもので、安政5年、石工の大三郎が作った石造文化財である。阿形が雄、吽形が雌。

・吉部村芝居

古くから農村娯楽として上演されていた「吉部歌舞伎」が、「吉部村芝居」という形に変わり昭和45年頃まで上演されていた。この文化的精神を引き継いで、吉部文化推進会により、吉部八幡宮秋の大祭の奉納芝居として昭和63年に復活した。平成20年山口県文化功労賞を受賞している。



⑥神宮寺・宝篋印塔

吉部八幡宮に隣接する神宮寺。境内にはクスノキ古樹のほか、楠地域唯一の近世期造立の宝篋印塔(供養塔)があり、塔身の蓮華台上部には四方に梵字が彫られ、下部南面に経文がみられる。



⑦厚東川の夫婦岩

吉部市からほどおからめ厚東川の岸近くにあり、北に荒瀧山が眺められ、川面に映る岸の緑やそよ風など四季の風光に優れた景勝の地。里人がいうには、大昔洪水で上流の嘉万の山から流れてきたもので、川の水かさが増すと、故郷の父母を恋うかのように、哀調をおびてすすり哭く声がかきこえる……

ちはははこいし、ふるさとこいし、かまこいし
江戸期に厚東川の舟航に従事した川舟の船頭さんが誰いうとなく唄い始めたものだとみわれている。

⑧吉部の大岩郷

無数の巨岩が、3ヘクタールにわたって広大な河川のようにゴロゴロと無秩序に重なり流れた様相をみせ、一大奇観を展開する。石質は、石英閃緑岩。また、岩の間や岩肌などにトラオシダ、ヒナラン、ノブドウなど生育し、周辺にはアカメガシワ、ネズミモチなどが混生し、植物学的にも興味深い。

【国指定天然記念物】

⑨藤ヶ瀬の高合石

この巨大な石組は、藤ヶ瀬浄円寺から南西方向およそ数百mの雑木林の中にある。高さ、幅とも約1.0mから1.5mの石が3段に重なっている。天然のものなのか人工によって造られたものか定かではないが、地元では山の婆の「タンス」とも呼ばれている。



⑩黒川の妙典供養碑(板碑)

この板碑は、法華経供養のための経塚か、願主の逆修のための建立か不明。中央に大きく蓮台があり、その下に胎藏界の大日如来を表わす梵字(アーンク)をのせた形で、下方には「天文十五丙午年八月二十四日 常音敬白 為妙典供養」と三行に彫られた銘文がみられる。

『防長地下上申』に、松雲山福王寺という古跡のことがみえ、またこの辺りは釈迦堂ともいわれていることなど関係があるのではないかとと思われる。【市指定有形文化財】

⑪犬塚

昭和6年に造立の「忠犬の碑」には、むかし砂香にいた「小吉部入道」という郷土の愛犬と大蛇にまつわる話が漢文で刻銘され、地名「犬ヶ迫」のいわれも述べてある。この碑のそばに「犬之墓」という入道建立と伝承のある古びた墓塔がある。(年代不明で柱状自然石) 顕彰碑は数多くあるが、動物に関係のあるものは大変めずらしく、地名由来が示されているのも貴重である。径10mの巨岩の上に、この二基の石碑のり、いかにもロマン漂う趣がある。



吉部について

吉部は、宇部市の北部に位置し、美祿市と隣接している。江戸時代以前は東吉部、西吉部の二村に分かれていたが、明治22年の町村制実施で吉部村が誕生し、その後合併により、昭和30年に楠町、平成16年に宇部市となった。

総面積は30.32km²、人口約870人、世帯数約380世帯。地勢的には、北部の市内最高峰の荒瀧山や日ノ岳から南西の高丸山まで山々が連なり、林野率は72.4%。東部の厚東川沿いに平野部を形成する盆地を呈している。また、冷涼な気候から「宇部の軽井沢」といわれている。

吉部の中心部は、船木街道に沿って発達した宿場町で、今も街なみなどに面影を至る所に残している。

歴史を感じながら、郷愁をそそる吉部の郷を散策してみませんか。

また、吉部地内では岩、石に関して特筆すべきものとして、荒瀧山頂の巨岩、山頂付近のくぐり岩、大岩郷、高合石、厚東川の夫婦岩などの天然記念物、名勝が多くある。お気軽に足を伸ばしての岩石巡りもお勧めです。

●吉部ふれあいセンターからの距離です。健康づくりのウォーキングなどの目安として役立て下さい。

②吉部市地区街なみ	200m	⑩吉部の大岩郷	2.2km	⑬荒瀧の滝	3.5km
③船木鉄道跡	410m	⑨藤ヶ瀬の高合石	4.0km	⑭耳観音	3.9km
④槍立森古墳	400m	⑪黒川の妙典供養碑	1.0km	⑮沈下橋(荒来橋)	3.8km
⑤吉部八幡宮	300m	⑫犬塚	4.7km	⑯木造十一面観音菩薩坐像	5.4km
⑥神宮寺・宝篋印塔	300m	⑬荒瀧山(荒瀧山城跡)	4.5km (登山1時間)	⑰武者屯	4.9km
⑦厚東川の夫婦岩	900m				

日ノ岳からの荒瀧山



あらたきさん

⑫荒瀧山(荒瀧山城跡)

標高459m、宇部市最高峰の山で頂上からの眺望ひらけ、晴天には西は関門海峡、東は防府方面に至る周防灘を一望できる風光明媚な山である。大内氏の重臣で長門守護代を務めた内藤隆春の居城跡でもあり、山の形状を利用した人工の形跡がある戦国時代の山城。平成12~16年度に発掘調査が行われ、中世の皿や輸入陶磁器などが発見されている。

山頂に大正14年明治天皇銅像が造立されたが、戦後盗難に遭い昭和33年陶像再建。吉部地区に功績のあった藤本東雄氏の陶像もある。また、美祿市境にある日ノ岳(458m)へ縦断する登山道も整備され、違った景観を楽しむことができる。【県指定史跡】



⑬荒瀧の滝

荒瀧山のふもとにあり、巨大な岩の重なりから流れ落ちる滝で「めおと滝」ともいう。うっそうとした樹々に覆われ、流れる水は夏でもひんやりと冷たく、四季折々の風情をもつ景勝の地。荒瀧山登山の疲れを、ひとときいやすにふさわしい憩いの場所でもある。

⑭耳観音(石室)

昔から、耳の病にかかった人々(耳鳴り・耳だれ・遠耳など)が人間の耳に似た石に耳をあてたり、穴のある石を奉納しこの観音さまに祈願すれば、耳の病がなおるといふ伝えがあり、各地から参詣者がある。

⑮沈下橋(荒来橋)

厚東川に架かる吉部荒瀧と小野区来見を結ぶ橋である。以前(明治の頃から)は川石を寄せ集めて橋脚とし、その上に幅30cmぐらいの厚い板を2枚ずつ並べて通った。大水の時は板橋が流されるので、3橋ずつ連結して両岸の大木にワイヤーでくくりつけ、水が引くと両方から数人ずつ川に入って板橋を橋脚に乗せていた。

通うに不便で危険でもあったので、両方の関係者が楠町(当時)と宇部市に交渉し幅1.5mのコンクリート潜水式橋が昭和41年に竣工し、両方の地名から荒来橋と命名した。



緑豊かな 吉部の郷

自然にふれあいながら 散策を楽しもう

もくそうじゅういちめんかんのんぼさつざぞう

⑯木造十一面観音菩薩坐像

今小野地区は内藤氏ゆかりの史跡が多く残る集落で、ここにある円通寺の本尊。像高は57.5cmで、くす材の一木造り。体内の墨書銘に、1345年(康永4年)に製作されたことが書かれている。古く円通寺は吉部の領主内藤氏の祈願所であったといわれている。

【県指定有形文化財】

⑰武者屯

人形ともいい、荒瀧城社の東麓今小野地区に残る広さ4間囲い(4坪)の石組みの遺構である。合戦の時、武者や足輕などこの囲いの中に並ばせ、人数を計ったとされる。中世期の山城史跡として貴重である。



吉部の特産

- ①ゆうれい寿司
- ②竿まんじゅう
- ③おいてませ饅頭
- ④きゅうり
- ⑤レタス
- ⑥筍

※①は芋煮え祭(11月3日)などイベント時、②~⑤は毎週日曜日、水曜日に開市の直売所「おいてませ吉部」で販売される。(⑥は第1・3日曜日、⑦は第1・3水曜日)

■編集/吉部文化財マップ作成委員会

■発行/宇部市教育委員会

平成24年(2012年)3月